石川中学校区　施設分離型小中一貫教育に関する研究

石川中学校　石川小学校

めざす児童生徒像

○ 知性豊かに心身ともにたくましい児童生徒
○ 地域を愛し，地域と主体的にかかわることができる児童生徒

研究主題　「学びと心を育む石川小中一貫教育」

１　主題設定の理由

石川中学校区は一小一中の学校区であり，児童生徒は９年間を同じ仲間と生活を共にすることになる。小中学校いずれも生活態度や学習態度は落ち着いており，素直で何事もまじめに取り組む児童生徒が多い。学校と地域のつながりが深く，地域の方は，学校教育への関心も高く協力的である。児童生徒は，地域のお祭りや敬老会，子供会行事など地域行事に積極的に参加し，地域の中で豊かな心が育まれてきている。将来，社会と関わり主体的に行動できる人間を育てるためにも，義務教育９年間の中で，友達や地域の人たちと関わりを深めることが重要である。

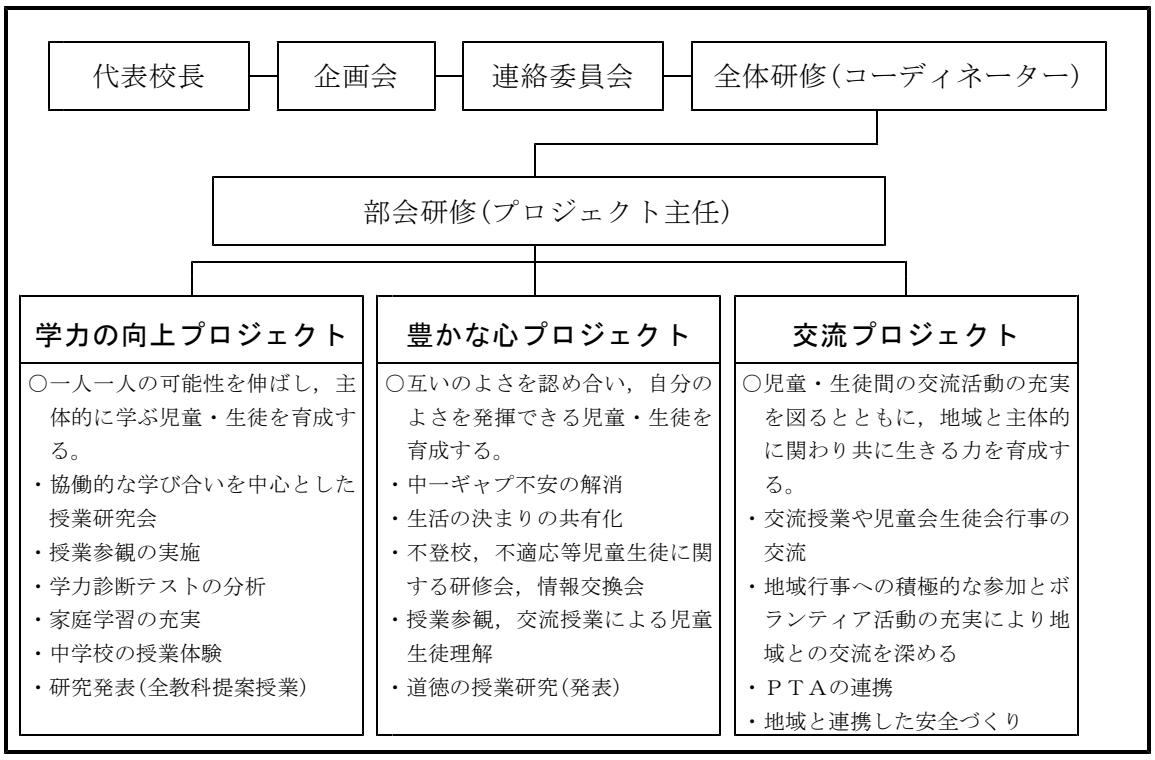
石川中学校区の９年間でめざす児童生徒像の育成のために，現在の児童生徒の実態をとらえ，体験活動や地域の人々，地域の特性にふれ，人と関わることを通して，「より深い学び」と「豊かな心」を育むことができると考え，本主題を設定した。

２　研究のねらい

○　一人一人の可能性を伸ばし，主体的に学ぶ児童生徒の育成を図る。（学力向上）
○　互いのよさを認め合い，自分のよさを発揮できる児童生徒の育成に努める。（豊かな心）
○　児童生徒間の交流の充実を図るとともに，地域と主体的に関わり共に生きる力の育成に努める。（交流）

３　具体的な取組内容

（１）研究組織



（２）研究計画

年次	重点内容・取り組み
1	９年間を見通した一貫性のある教育計画の工夫・多様な小中教育活動の実践
2	指導体制，指導方法の工夫・中間研究発表会(全教科)
3	計画的，継続的な交流活動の工夫・研究発表会(全教科・道徳・まごころ)

（３）取組の内容(実施月)

①　教職員の連携・意識の向上に関すること

○　コーディネーターによる連絡協議会（毎月）
○　小中合同研修会（６月・７月・８月・11 月・２月）
○　小中一貫教育連絡協議会（５月・８月・11 月・２月・３月）
○　各教科授業研究〔相互授業参観〕(10月２回)
○　要請訪問〔相互授業参観　小・中：道徳，中：音楽〕（７月・11月・１月）
○　小中教職員懇親会（９月）
○　小中合同研究紀要の作成（11月）
○　学校だよりの交換（通年）

②　学力向上に関すること

○　学力診断のためのテスト結果の情報交換（５月，８月，３月）
○　中学生による小学生「学びの広場」のサポート(７月)

○　全国学力学習状況調査結果の情報交換（７月，９月）
○　小中一貫まごころ授業（７月）

時差(社会)

文字と式(算数・数学)

水溶液の性質(理科)

御伽草子(国語)

他者紹介(英語)

合唱(音楽)

石川カルタ(図工・美術)

体つくり運動(体育)

ティッシュケース(家庭)

プロロボ(技術)

全体会

分科会

○　小学校学力診断テストの小中教員による共同分析（９月，10月，12月）
○　小学校６年生に「学習のてびき」の配付（２月）
○　中学校英語科教員により小学６年生への英会話の授業（毎月３回）

③　生徒指導に関すること
○　生徒指導，特別支援関連情報交換（６月，８月，２月，３月）
○　中学校教員による小学校６年生の授業参観（２月）

④　児童生徒間の交流，地域との交流に関すること
○　引き渡し訓練の同時開催

○　小中部活動激励会（６月）

○　小：計画委員会・中：生徒会による西日本豪雨災害義援金活動（７月）

○　小学校６年生の中学校体育祭競技への参加（９月）

○　小学生陸上競技指導（10月）

○　中学校文化祭小中共同作品作りの協力(10月)
○　中学校文化祭への招待（11月）

○　小(６年生)中学生合同ボランティア活動（11月）

○　中学校合唱コンクール最優秀学級の小学校音楽集会への参加（11月）

○　小中一貫３年次発表会(11月)

○　地域行事「かぼちゃまつり」「敬老会」「市民運動会」ボランティア活動参加（９月，10月）
○　小学校６年生の授業体験・見学，部活動体験・見学（12月，２月）

○　門松づくり(12月)

４　成果(進歩状況と今後の課題)

（１）成果

○　小中教員の相互授業参観の機会を多くもち，９年間を見通した授業実践の意識が高まった。
○　小中一貫教育連絡協議会等で話し合う機会をもつことで，お互いの教職員を知り，協議が活性化した。
○　小中教職員懇親会を開催したことにより，相互理解ができた。
○　小中一貫教育研究を実践したことにより，来年度以降何をすべきか，何ができるのかを考え話し合い，今後の小中一貫の取組が具現化された。

（２）課題

○　小中両教員が相互の授業を行うための工夫をさらに進めたい。特に中学校教員の専門性を小学校で生かす工夫(内容・時間)を考えていきたい。
○　昨年から小学生が中学校に来ての交流活動が大幅に増えた。一小一中の利点があるが，両校間の距離があるため，時間の調整が難しい。来年度から互いの行事の精選を行い，そのためより効果的な一貫教育を探っていきたい。
○　今後はICTを活用した小中一貫の取組も考えていきたい。
○　規律と協働を高める八策を共同で進めたい。